



2021年 12月15日
第93号

JR 東労組 Yokohama

JR東労組横浜地本

発行人 助川一実

編集 情宣担当

ホームページ

<http://www.jreu-yokohama1.jp/>



イーハトーブ

12月15日号

いよいよ2021年も残り半月を切った。今年を振り返ると一言では語れないが、新型コロナウイルスは変異株「オミクロン」となり新たに警戒を強めている。見えない恐怖は依然安心できない。性質はまだ明らかになっていない為、警戒はしつつも、気を緩めることなく慎重に見ていく必要がある。毎年発表されている今年を表す漢字一文字は「金」であった。「金」といえばオリンピックメダルを思い出すが、コロナ給付金や新紙幣などのお金の連想もあるそうだ。私たちにとっては賃金の「金」でもある。

私たちは、今年の定期昇給も、半分カットされた。さらに、年末手当の回答も民営化以降、最低額の水準であった。今、多くの職場では、「職場が暗い」「本音が言えない」と言った閉塞感が蔓延している。赤字・コロナ禍だから仕方がないとあきらめてしまいうる不安がつくられている。会社は、ごく一部の意見を聞き、それが全体のように受け止めている。安全・安定輸送を最先頭で確保してきた「組合員・社員」に応えていない。しっかりと生活実感・労働実感に込めるべきだ。

来年2022年は寅年、「壬虎（みずのえ・とら）」である。冬が厳しいほど華々しく生まれる年になるという。来年こそ、「喜」びがあり、「幸」せの「笑」いの絶えない漢字を実感できる1年であってほしい。しかし、願っていても実現しない。職場からたたかい抜いていく。どんな苦難な道でも、私たちが労働者が飛躍できる1年を創る。(T・O)

イーハトーブとは

「注文の多い料理店」や「雨ニモマケズ」などの著者として有名な宮沢賢治による造語です。故郷の岩手県をモチーフとし、彼の心の中にある理想郷を示す言葉です。

社会に目を向け、新しいものを積極的に取り入れ、農民の生活向上のために最後まで尽力した宮沢賢治の生き方に学びながら、私たちが外に目を向け、私たちが安心して働き暮らせる理想郷を実現していこうという想いを込め、イーハトーブというタイトルで情報発信を行っていきます。